



### 『ジュゴンとマナティー海牛類の生態と保全』

ヘレン・マーシュほか 著・粕谷俊雄 訳

2021年9月  
東京大学出版会 発行  
528頁  
定価 12,980円（本体 11,800円＋税）

浅川満彦

（酪農学園大学 獣医学群 獣医学類 感染・病理学分野  
医動物学ユニット / 野生動物医学センター WAMC）

もし、高い！と感じた方が、それなりの英語読解力と海産哺乳類の基礎知識を既に具有されている場合、4,000円以上安価な Marsh et al. (2011) の電子版を購入するだろうか（もう少し高いがペーパーバックもある）。しかし、こちらは単なる訳本ではない。沖縄のジュゴンの現状について、新たな章（第10章）が設けられ、啓発と警告をしている。隣国の急速な軍事大国化に伴い、この動物が生息する海域は、キナ臭い。畢竟、新たな米軍基地設置になだれ込まれ、ジュゴンはじめ貴重な生物が悲惨な状況にあることは、既に我々は報道で知っている。これを読み込むだけでも本書を手にする価値がある。なお、この章では、なかなか目にするできない最新の「沖縄防衛局」のアセス報告書なども多数引用しており、資料性も高い。

この日本版で追加された章を除く、原書本文を構成する9つ

の章を通じ、絶滅種含む海牛類の生物学的な基本情報と保全施策の試みが詰め込まれている。10年前に刊行されているが、色褪せてはいない（そもそも、研究者が少ないのでそれなりの進捗度合いを反映しているに過ぎないのだろう）。

もちろん、本学会員が最も関心が高いとされる疾病（と病原体）についても、保全上の脅威の章に記され（項目名称は「感染症と大型寄生物」、「化学汚染」および「有害な赤潮と生体毒素」）、参考になる。この章が凄いのは、疾病のみならず、コラムに相当する box でこのような因子がどの程度、現生海牛類（亜種ごとに脅威レベルをマイナス・プラス・ツープラスの3段階に分け示していることであった（注：他に情報欠如あるいは不明確な場合は「不明」、不明でも懸念が大きい場合、「？」）。もちろん、これらは「えいやっ！」と山勘で決めたものではなく、引用文献を根拠として明示されている。引用文献表は巻末に54頁に及ぶ膨大なものであった（モノグラフなので当然）。また、原書刊行年を反映していることからその表で収載されていたのは、1980年代から2000年代の論文・著作が大半を占めている。また、website 情報も補足情報として提示されていたが、これは、原書のいくつかの章で添付された附録 appendix である。この中には原書刊行時にアップデートされた寄生蠕虫類（本書では大型寄生物の中に含まれた）の一覧表もあり、浅川的には非常に助かった。

他に基礎獣医学的な情報としては食性や繁殖に関わる生理学・生化学、生態・進化に関わる形態（遺伝学・解剖学）が、また、応用獣医学的な側面では行動や齢査定、そして個体群動態などが記されている。残念ながら臨床獣医学の内容は、前述した感染症の診断などを除き、関連記述はほぼ欠くものの、本書が海牛類の野生動物医学として他に類の無いニッチを占めるのは間違いない。

#### 引用文献

Marsh H, O'Shea TJ, Reynolds JE. 2011. *Ecology and Conservation of the Sirenia: Dugongs and Manatees*, 542 pp, Cambridge University Press, UK.